

民法概説(五訂版)



監修	:	裁判所職員総合研修所
定価	:	定価 3,300 円(本体 3,000 円+税 10%)
判型	:	A5 判
ページ数	:	326 ページ
ISBN	:	978-4-906929-89-4
発行	:	2021 年 6 月

内容

平成 25 年に刊行した四訂版に、その後の法令等の改正に伴い、8 年ぶりに加筆修正をしたものです。

民事実務上欠くことのできない基礎知識や基本の理解が得られるよう、『プロローグ』で「人と民法の関わり」「法学を学ぶ意味」や「法律要件、具体的事実、法律効果」「法律関係」「私的自治の原則」「利益衡量」などにも触れた上で、本文では、基本事例の解説や参考図の挿入などの工夫をしながら、民法の考え方の基本を丁寧に解説しています。初学者のみならず、民法を深く学んでいく手掛かりとしても活用していただける一冊です。

[目次\(抄\)](#)

目次(抄)

プロローグ	第3章 物権の変動	第3 代物弁済
第1 人と民法の関わり	第1 総説	第4 供託(弁済供託)
第2 権利義務把握のシステム	第2 法律行為による物権変動	第5 相殺
第3 法律要件, 具体的事実, 法律効果	第3 不動産物権変動と公示	第6 更改
第4 法律関係	第4 動産物権変動と公示	第7 免除
第5 民法という法律	第4章 所有権	第8 混同
第6 私的自治の原則	第1 所有権の性質	第5章 有価証券
第7 物権と債権	第2 所有権の内容	第6章 債権債務, 債権関係の移転
第8 民法典の構成	第3 所有権に基づく物権的請求権	第1 総説
第9 判例	第4 共有	第2 債権譲渡
第10 利益衡量	第5章 占有権	第3 債務の引受け
第11 法律学を学ぶ意味	第1 占有制度の存在理由	第4 契約上の地位の移転
第1編 民法総則	第2 占有の意義, 種類	第7章 多数当事者の債権及び債務
第1章 権利の主体	第3 占有権の承継	第1 総説
第1 権能力	第4 占有の推定力	第2 分割債権及び分割債務
第2 行為能力	第5 占有権に基づく物権的請求権(占有訴権)	第3 不可分債権及び不可分債務
第2章 法律行為	第6章 用益物権	第4 連帯債務
第1 法律行為の意義	第1 地上権	第5 連帯債権
第2 法律行為の有効要件	第2 永小作権, 地役権, 入会権	第6 保証債務
第3 意思の不存在, 瑕疵ある意思表示	第7章 担保物権	第8章 契約総論
第4 意思表示の伝達方法	第1 人的担保と物的担保	第1 契約の種類
第5 代理	第2 債権者平等の原則と担保物権	第2 契約の成立
第6 無効, 取消し	第3 担保物権の位置づけ	第3 双務契約の効力
第7 条件, 期限	第4 抵当権	第4 第三者のためにする契約
第3章 期間	第5 担保物権の種類	第5 契約の解除
第1 期間の意義	第6 非典型担保	第6 定型約款
第2 期間の計算方法	第3編 債権法	第9章 契約各論
第4章 時効	第1章 債権法概説	第1 総説
第1 時効制度の存在理由	第1 これまで民法総則, 物権法で学んだこと	第2 贈与
第2 取得時効	第2 これから債権法で学ぶこと	第3 売買
第3 消滅時効	第3 債権法の構成	第4 消費貸借
第4 時効の効力	第2章 債権の種類	第5 使用貸借
第5 時効の完成猶予及び更新	第1 「与える債務」と「なす債務」	第6 貸貸借
第6 時効と除斥期間	第2 特定物債権, 種類債権, 金銭債権, 選択債権	第7 雇用
第2編 物権法	第3章 債権の効力	第8 請負
第1章 物権の意義	第1 現実的履行の強制	第9 委任
第1 物に対する支配性, 排他性	第2 債務不履行による損害賠償	第10章 事務管理, 不当利得
第2 物権法定主義	第3 債権者代位権	第1 契約以外の債権発生原因
第3 物権の種類	第4 詐害行為取消権	第2 事務管理
第4 物権の客体	第4章 債権の消滅	第3 不当利得
第2章 物権の一般的効力	第1 総説	第11章 不法行為
第1 総説	第2 弁済	第1 総説
第2 物権的請求権		第2 不法行為の一般的成立要件
第3 優先的効力		第3 特殊の不法行為
		第4 不法行為の効果
		資料
		事項索引